



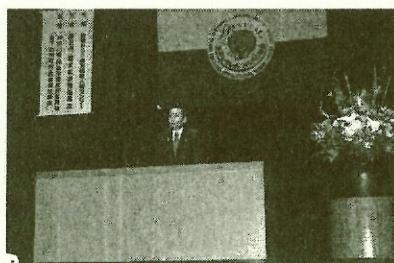
## 神奈川県人権啓発講演会に参加して

10月24日（金）神奈川県立音楽堂（横浜市西区紅葉ヶ丘9-2）において、人権啓発講演会が開催された。

今回の講演会は、国連NGO横浜国際人権センター主催、横浜市・横浜市教育委員会が共催し、神奈川県・神奈川県教育委員会及び県下32市町村・各教育委員会が後援したもので、7月から相模原市、川崎市、厚木市、茅ヶ崎市、伊勢原市、横須賀市においても同様の講演会が開催されている。

今年度、最後となるこの講演会には、神奈川県及び横浜市の職員、教職員等約700名が参加していた。

神奈川県県民局 坂井雅幸くらし県民部長、横浜市市民局 池戸淳子人権・男女共同参画担当部長が「誰もが生きていてよかったと思える社会づくりのため、今日の講演内容を生かしていただき、人権尊重の輪を職場や家庭、地域に広げていただきたい。」旨の挨拶を行なった。



横浜国際人権センター活動紹介ビデオ「命と人権を守るために」上映後、講演会に移り、落語家の露の新治氏による「笑顔でくらす、願いにいきる～自分の人生、自分が主役～」という演題で口演が行なわれた。

露の新治氏は、大学を卒業後、1975年 林家染三師に入門、林家しん三となる。その後、奈良県での夜間中学校設立運動に関わり「やりたい事をやるべきだ」と教えられる。1982年 露の五郎門下に移り、露の新次となり、その後、露の新治に改名し、人権講演会「新ちゃんのお笑い人権高座」を全国各地で口演している。

落語への精進を行いながら、自身の体験から、差別に関する問題意識も強く持ち続け、香川県で始めた「新ちゃんの人権高座」を「お笑い人権高座」へと発展させ、落語のエッセンスを含んだ人権口演に取組み、テレビやラジオにも出演している。

口演のなかで露の氏は、「今のあなたがいるのは、両親がいたから、その上には4人のお祖父さん、お祖母さんがいた。さらにその上には8人の曾祖父さん、曾お祖母さん。そして、33代遡ると85億人以上の命が必要になってくる。奈良、平安時代の日本は200万から300万の人口だったと言われている。ということは、何人の重複がないと今のあなたはいないのです。この会場にいる方々も、同じ血で繋がっているのです。つまり、血筋の差別なんてものに理由は無いのです。自分の血筋もわからないのに、他人の血筋がわかるわけがない。その様な何の根拠も無いのに、これまで多くの差別が行われてきたと・・・。偶然に生まれた命、延べ85億人以上の命の繋がりで与えられた命を大切にしましょう。そして、偶然ではありますが、願われて生まれた命です。これからは、笑いながら楽しく生きましょう。」

差別は無意味。差別に対して「それが何だと言うんだ。」と強い意志を持ち、切り返していくことが大切になってしまいます。



このような話を難しく語るのではなく、落語口調で分かりやすく笑いを交えながらの口演だった。

国連NGO横浜国際人権センター・山梨ブランチ

代表 横山 隆史（全日本同和会山梨県連合会会長）

〒400-0831 甲府市上町 601-4 甲府市環境センター内 なでしこ工房 1階 Tel 055-243-8563